

# か い た く

教会のない地域に教会を 刈り入れ場に働き人を



あなたがたが、最初の日から今日まで、福音を広めることにあずかって来たことを感謝しています。(ピリピ人への手紙一章五節)

ピリピの教会の始まりは、二つの家族と数名のクリスチャンだけだったと思います。しかし、その小さな教会のクリスチャンたちは救われたその日から、パウロの福音宣教に関わって行きました。彼らは経済的にパウロの働きを支えただけではなく、困難さえも分かち合いました。そこには、「キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜った」のだという信仰があったからでしょう。

私たちは困難な状況に遭遇すると、意気消沈したり、不安を覚えたり、自信を失ったりします。しかし、それは信仰から出ていることでしょうか。国内宣教は困難な状況に置かれています。しかしそれは、「キリストの栄光が現われるときに、喜びおどる者となるためです。」

伝道者の皆さん、困難は賜ったものだと思っ  
て止めて、喜びに変えましょう。小さな教会  
に連なった信徒の皆さん、どうかあなたが救  
われたその最初の日から、伝道者たちと福音  
宣教の働きに関わる者となってください。そ  
うして行く時、ピリピの教会が監督や執事  
を持つ教会に至ったように、神様は多くの実  
りを与えてくださる事でしょう。

(国内宣教委員長・榎本昌博)

# 宣べ伝えよ

力と心を尽くして～

教会牧師・齊藤 雄典先生

者生涯の証、そして御言葉からの説教を通して、参加者に  
た。全部で四回の集會を要約したものをご紹介します。

それは私の切なる祈りと願いにか  
なっています。すなわち、どんな  
場合にも恥じることなく、いつも  
のように今も大胆に語って、生き  
るにも死ぬにも私の身によって、  
キリストがあがめられることです

ピリピー一章二〇節

## 悔い改めから始める

伝道者にとつてまず、何よりも大切な  
のは、悔い改めと召しと献身を明確にす  
ることです。バプテスマのヨハネもイエ  
ス・キリストも宣教の始めの言葉は「悔  
い改め」だったように、すべては悔い改  
めから始まります。それは伝道者が人々  
に最初に語るべき言葉でもあります。ル  
カの福音書二四章四七節で「その名によ  
って、罪の赦しを得させる悔い改め」が  
語られ、また、マルコの福音書六章一二  
節で十二弟子が悔い改めを説き広めた  
とおりです。伝道者をはじめ、真実な主の  
弟子は誰でも悔い改めているはずで  
す。

また、悔い改めは私たちに聖化をもた  
らします。それは究極的には、キリスト  
に似た者へと変えられていくことです。  
伝道者は、エペソ四章一節で「召しにふ  
さわしく歩みなさい」と語られているこ  
とを覚え、自身が何に召されているのか  
を常に吟味する必要があります。召しに  
ふさわしく歩んでいることによって、は  
じめて信徒たちにもそれを語ることで  
きるからです。

## 朝夕の祈り

朝夕の祈りの時間を欠かさないことも  
大切です。祈りは率直でなければなりま  
せん。もし経済的に必要があるのならば  
それを率直に申し上げるのです。朝、神  
との交わりを豊かに持ち、御霊の力を頂

くならば、その日一日確信をもって伝道  
の業に励むことができます。人を恐れる  
ことなく語ることができるようになるの  
です（齊藤先生は道端で出会った学生に  
「止まりなさい、そこに座りなさい！」  
と言って、福音を語られたこともあるそ  
うです）。

ヤコブ四章一七節に「なすべき正しい  
ことを知っていながら行なわないなら、  
それはその人の罪です」とあります。そ  
の意味で、伝道者が分かっているながら罪  
を犯しているならば、なぜ実を結ぶこと  
ができるのでしょうか。失敗は罪ではあ  
りません。信仰によって世に打ち勝ち、  
行動を起こさないことが罪なのです。伝  
道者がある点で脆弱ならば、信徒も脆弱  
になります。私たちは朝夕の祈りによっ  
て、力を頂かなければなりません。

## 教会を建て上げる

伝道者自身が霊的に整えられ、信徒も  
整えられて初めて、教会を確固なもの  
として建て上げることができるのです。具  
体的には、できれば開拓伝道の時期に弟  
子訓練の仕組みを整え、基礎教員を鍛  
え、牧師のパートナーとなる人材を育て  
ていくことが大切です。牧師は教会全体  
のビジョンやイメージを語りますが、具  
体的な働きも多くは献身した信徒たちに  
任せるのです。

他にも牧師の仕事は多岐にわたってい  
ます。個人伝道に始まり、救われた人に



カンファレンスに参加された諸教会の先生方、兄弟姉妹方

バプテスマを受け、聖書の学びを授けま  
す。関わっていく相手もさまざまの方が  
おられるため、社会的、経済的、精神的  
問題など多様な知識を備えなければなり  
ません。しかし、何よりも大切なのは説  
教のための学びです。第二テモテ三章一  
六節の「教えと戒めと矯正と義の訓練」  
から始まり、信徒たちの目を世界宣教に  
まで引き上げなければなりません。信徒  
が右往左往しないように、伝道者ははっ  
きりとした「ラッパの音」を吹き鳴らす  
必要があるのです。

# 2014年 JBBF 国内宣教 カンファレンス レポート

# キリストを

～あらゆる知恵と力

講師：沖縄聖書バプテスト

主から与えられた豊かな恵みと経験と知恵の賜物による伝道  
霊的生活の基本と多くの具体的なチャレンジをいただきました。

## 説教と群れへの配慮

牧師自身が説教することを喜びとし、また信徒も説教を楽しみとするようになりたいたいものです。そのためには、神の言葉の正確な学びは当然のこと、人々によく届くようにプレゼンテーションの技術を学ぶことが有益です。また牧会書や信仰良書にも十分目を通し、さらには社会的な問題にも広く目を配っておく必要があります。教会のなかに知らずに世の価値観が入り込んできていることがあります。教会は世に対して「対抗文化」を築かなければなりません。

また、何よりも教会員に対する祈りを大切にしたいと思います。ヨハネ一七章で語られているように、一人ひとり主なる神が世から取り出してイエス様になされた大切な方々です。その群れの全体に気を配るために、たとえば教会員名簿を用いて、毎日順に祈っていくと良いでしょう。

牧師はスポーツチームの監督のような立場でもあります。牧師を支える助け手を育てるためにも祈りは欠かせません。そのような十分な祈りを積んだ上で、信者と関わり、また主の晩餐におけるパン裂きの交わりを大切にします。また教会で信徒に公の祈りをしてもらう時には、神学的にキチンとした祈りを準備してもらいます。

## 教会とは何か

そもそも教会とは何でしょうか。原語では「呼び集められた」を意味するエクレシアという言葉が使われています。ですから、まず集まることが大切です。集まって聖書の説き明かしに耳を傾けるのです。そこで人々は、観念的ではなく実際の生活の中で血肉となるような霊の食物を与えられなければなりません。ある人はつまずいて出て行くかもしれません。人が、きちんと神の言葉を語っているならば、それは伝道者の責任ではありません。真に御言葉が語られ、礼拝が捧げられるとき、教会内には感謝が溢れるはずです。

## 教会会計について

支出項目を祈りのなかで綿密に組み立てる必要があります。何よりも大切なのは宣教費、次いで牧会費、そして集会費という順序にすることが望ましいと思います。献金が何の働きに使われているのかをはっきり周知させることで働きに必要な経済は満たされていきます。また、教会の土地建物のため借金は極力避けることが良いと思います。返済していくために教会本来の働きに必要な出費が抑えられてしまうことは望ましくありません。また借金があるというだけで敬遠する人もおられます。

以上の総括として、①信徒をキリストの身丈にまで育てる、②そのためにはまず牧師自身が成長しなければならぬ、③そのために十分な時間を使わなければならない：の三点が語られ、四回の集会が閉じられました。最後に分科会のための全体メッセージがなされました。齊藤先生はまず、詩篇八篇二節「あなたは幼子と乳飲み子たちの口によって、力を打ち建てられました」を引用されました。そしてここから比喩的に信仰者としての幼子、すなわちバプテストマを受けて間もない信徒に当てはめ、そのような人たちをお客さん扱いするのではなく主の働きの力強い一員として備えられていることの大切さが語られました。



# カンファレンスに参加して

## 悔い改めという基本に立つ

上越BBC牧師 加治佐 清也



年始恒例のカンファレンス。今年は沖繩BBCの齊藤先生をお招きして、「力と知恵を尽くしてキリストを宣べ伝える」との趣旨で行われました。一泊二日で四回の講義と一回の分科会という濃厚なプログラムであったにも関わらず、慌ただしさを感じることはなく、充実した時間を過ごすことができました。齊藤先生のお話をとおして、さまざまなお話を教えられ、考えさせられました。最初の集会で「悔い改め」についてお話しをされたことが特に印象的でした。キリストを宣べ伝えるにあたって、悔い改めという基本に立つことの大切さを教えられた主の恵みに感謝いたします。

分科会では、若い人への伝道・教育について先生よりお話を伺った後、十名程度の班に分かれ、話し合いを持ちました。私の班には若手からベテランの先生、また信徒の方もおられ、齋藤先生のお話についての感想や各教会に

おける取り組み・課題などを分かち合いました。自分が気づけなかった点を教えられたり、課題を共有したりと実りあるひとときでした。

この二日間、主にある交わりに浴せたことにも感謝いたします。交わりやお証しのなかで、年に一度のこの集いが喜びや困難のなかで国内宣教に励む先生や兄弟姉妹にとって励めとなり、励ましとなつていてることを実感し、主の恵みに感謝いたしました。次回もまた主の恵み豊かな集いとなりますように。

## 交わりによる励まし

習志野BBC牧師夫人 松山 るつ子



今回初参加です。神様と連れて行ってくれた主人に感謝いたします。当日は快晴で、暖房は不要でした。天気以上に、主にある献身者同士の暖かな交わりに癒され、励まされました。

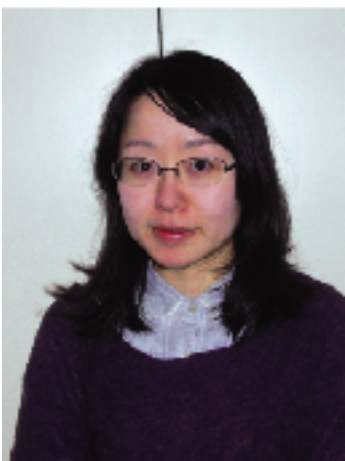
分科会も含め二日間で合計五回の集会有り、学びと交わりの時間がたっぷりある大会でした。聖書からの教えや共に歌った賛美の一曲一曲、証し、

先生方との情報交換とお交わり、特別賛美、祈りの時、そして温泉など、多くの恵みに満ちたひとときでした。新年の始めに、霊的にも身も心もリフレッシュできた素晴らしい集会でした。

「牧師夫人や婦人献身者のための集まりも今後企画していこう」という牧師先生たちの暖かなご提案も嬉しかったです。女性特有の問題、子育て、介護や信者さんとの関わり方、カウンセリングなど、いろいろな問題に囲まれています。共に祈りあい、知恵を分け合える時間は貴重です。それぞれ置かれた状況は違いますが、一生懸命に主にお仕えしている同業者のなかにいるだけで、私はとても励まされました。このカンファレンスのために準備をしてくださった先生方のお働きに感謝いたします。

## パウロのような熱い思い

名古屋BBC神学生 上田 奈美



カンファレンスは天候に恵まれ、見事な景色と主の祝福のなかで行われました。一泊二日という短い期間でしたが、四回の集会和充実した交わりがあ

りました。講師の齊藤雄典先生からは、ひとりでも獲得したいという、パウロのような熱い思いが込められたメッセージが語られました。特に私にとって学びとなったことが三つあります。まず、前進するには悔い改めと召しの確認が欠かせないこと。次に、夕べの祈りで、朝の祈りが聞かれたことを感謝すること。最後に、なすべき正しいことを知りながら行わないことは罪であるということでした。

分科会は姉妹だけの集まりで、齊藤先生がリードしてくださいました。そのなかで、伝道者の夫人方に対し、励めの言葉が多く語られました。また、伝道者家族のご苦労も伺うことができました。カンファレンスでは、普段なかなかお会いすることのできない女性の先生方と交わることができ、多くの励ましをいただきました。交わりの素晴らしさがあらためてわかりました。(ヘブル一〇：二五)また、お証しを伺いながら、主の働きを担っておられる先生方に一層の尊敬を覚えました。末筆になりますが、貴重な機会を与えてくださった神様と、多くの労を担ってくださった齊藤先生はじめ、委員の先生方、諸教会の兄弟姉妹に心から感謝いたします。

## 献金振込先(郵便振込)

00140・2・654375

JBBF国内宣教委員会

<http://jbbfmission.web.fc2.com/>